



檀原神宮(檀原市)は、

大和三山の一つ、畝傍山のふもとに鎮座しています。祭神は第一代・神武天皇と媛蹈鞰五十鈴媛皇后です。

「日本書紀」によると、神武天皇は檀原宮で即位したとされます。このため民間有志が「神武天皇の御聖徳を後世に残した

檀原神宮 (檀原市)



い」と請願し、感銘を受けた明治天皇が元京都御

(住所) 檀原市久米町934
(祭神) 神武天皇、媛蹈鞰五十鈴媛皇后
(交通) 近鉄檀原神宮前駅から約10分

(拝観) 境内自由。宝物館は来年5月12日までの特別展は700円
(駐車場) 普通車500円など
(電話) 0744・22・3271

神武天皇祭る即位の地

所の内侍所(賢所)と神嘉殿を下賜され、移築して1890(明治23)年、格式が高い官幣大社として創建されました。内侍所だった本殿は1855(安政2)年の建物で、国重要文化財。神嘉殿は今の神樂殿です。

現在の境内は約53万平方メートルで、阪神甲子園球場の約13個分の広さ。畝傍山を挟んだ北側には神武天皇陵があります。檀原神宮で最も重要な祭典は、毎年2月11日(建国記念の日)の「紀元祭」です。勅使(天皇が派遣する使者)を迎え、厳粛に執り行われます。

初詣には毎年100万人以上が訪れますが、玉砂利を敷き詰めた外拝殿前の広場で、ひときわ目を引くのは大絵馬。高さ4・5メートル、幅5・4メートル、通常の絵馬の約1600倍の大きさです。折禱殿(車両扱い所)から外拝殿まで砂利道の横に舗装道路が整備され、車椅子でも快適に参拝できます。(奈良まほろばソムリエの会会員 磯村洋一)